

# ヒロシマに

# いど 挑む

原爆投下の広島で実相究明に取り組む  
医学者たちの始動期の軌跡

—広島大学医学部および原爆放射線医科学研究所での様相—



## <特別展示> <sup>ひで けい</sup>秀敬氏調査ノート

1945年10月より広島文理科大学（現・広島大学）の地質学鉱物学教室の研究者たちが広島の被爆地に入って調査を行ったが、そのとき大学院生の1人として同行したのが秀敬氏（のち広島大学名誉教授）であった。彼らの調査研究は原爆の放射線の線量推定を検討するのに不可欠であった。今回、医学だけではなく広島大学のヒロシマへ挑む姿の1つとして、この秀氏の調査ノートをご紹介します。

2019年 **8/5** (月) ~ **9/20** (金)

**広島大学医学部医学資料館**

10 : 00 ~ 16 : 00 (土曜日・日曜日・祝日・夏季休暇日閉館) 広島大学霞キャンパス (大学病院前)

協力 広島大学医学部 広島大学文書館 広島大学総合博物館

共催 広島大学原爆放射線医科学研究所 広島大学医学部

放射線災害・医科学研究拠点 (広島大学・長崎大学・福島県立医科大学)

企画・製作

広島大学原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部